

2024年（令和六年） 8月23日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

当週(8月8日～21日)の国際石油市場は、前半は、イスラエルとハマスの戦闘激化・イラン介入懸念に伴う中東情勢の緊張激化、米国の過度の景気後退懸念の緩和で、上昇傾向であったが、後半は、パレスチナ停戦交渉の合意観測・イランの自制的姿勢で、中東の緊張緩和があり、米国の軟調な経済指標・中国需要の弱気観測もあって、低下傾向であった。

NYのWTI原油先物市場は、8日、3日続伸の76.19ドルで始まり、5営業続伸の12日には80.06ドルと80ドルを回復したが、その後、15日に反発したものの、21日には8か月ぶりの安値71.93ドルまで下落が続いた。

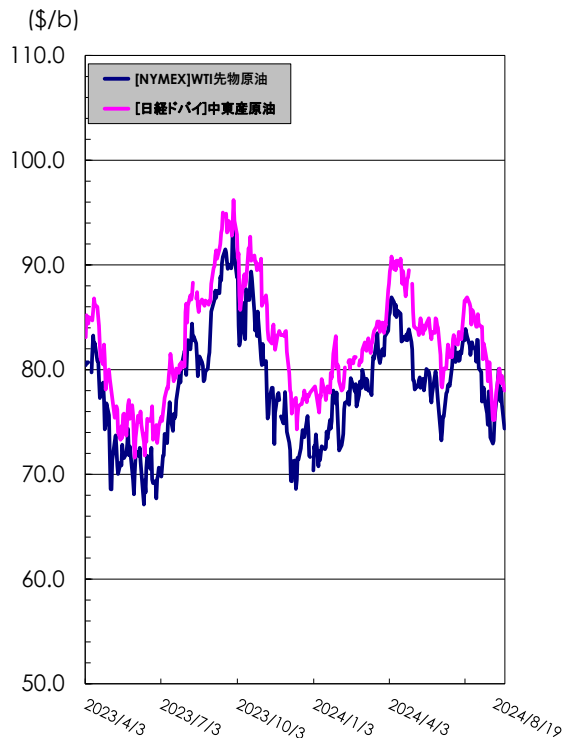
また、中東産パイ原油/東京市場(10月渡し)も、前週(8月1日～7日)75.20～80.70ドルの範囲で推移したが、当週は、8月8日76.80ドル、9日77.80ドル、13日80.10ドル、14日79.40ドル、15日78.70ドル、16日79.40ドル、19日78.00ドル、20日76.50ドル、21日76.60ドル、と推移した。

対ドル為替レート(TTM)は前週(8月1日～7日)144.98～149.62円の範囲で推移したが、当週は、8月8日146.20円、9日147.66円、13日147.34円、14日147.12円、15日147.39円、16日149.13円、19日147.93円、20日146.45円、21日145.60円となった。

財務省が8月21日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、7月下旬の原油輸入平均CIF価格87,872円で前旬比1,156円安、ドル建て87.59ドルで前旬比0.33ドル安、為替レートは1ドル/159.48円。また、7月月間の原油輸入平均CIF価格88,326円で前月比1,783円高、ドル建て87.93ドルで前月比0.08ドル高、為替レートは1ドル/159.70円。

そのような中で、8月13日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油も同横ばい、灯油は同1円高(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.6円となった。8月15日～21日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は17.1円(補助金がない場合の次週予想価格191.9円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は6.9円)となった。また、8月19日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円安、軽油も同0.1円安、灯油は同横ばい(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.5円となった。8月22日～28日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は20.0円(補助金がない場合の次週予想価格194.8円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は9.8円)となった。

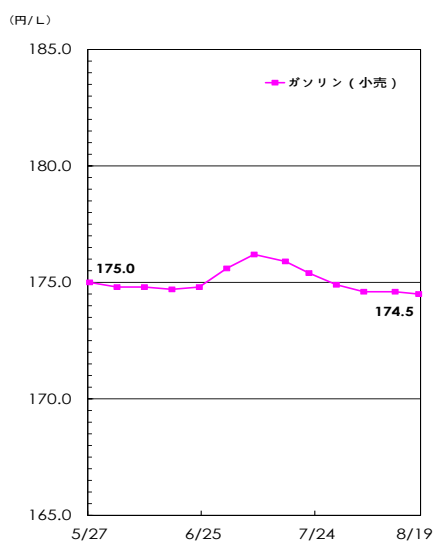
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/11～8/17	2,461 ▲18	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	71.1 ▲0.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/17	9,864 ▼-799	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	8/19	78.00 ▼-2.10	▼-8.7
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/19	74.37 ▼-5.69	▼-6.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月下旬	87.59 ▼-0.33	▲7.07
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	87,872 ▼-1,156	▲15,777
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	159.48 ▲1.52	▼-17.13
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/19	148.93 ▼-0.59	▼-2.60



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/11 ~ 8/17	930 ▲ 80	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	967 ▲ 112	▲ -
	輸出	"	49 ▲ 49	▼ -
	在庫	8/17	1,346 ▼ -86	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/13 ~ 8/19	81.0 ➡ 0.0	▼ -4.0
		(TOCOM/中部) 8/19	79.0 ➡ 0.0	▼ -17.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 8/19	174.5 ▼ -0.1	▼ -9.2

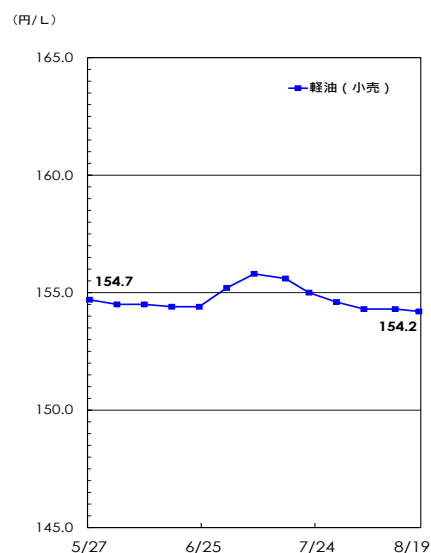
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

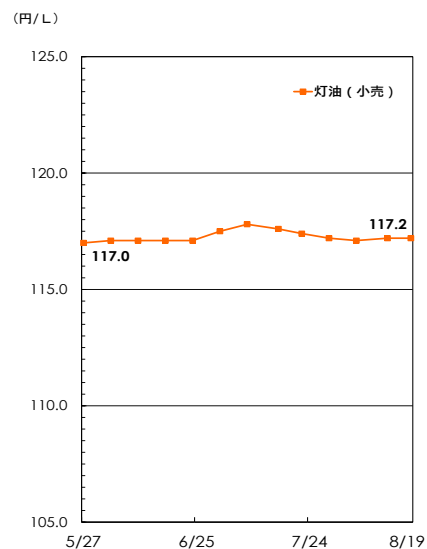
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/11 ~ 8/17	464 ▼ -222	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	219 ▼ -366	▼ -
	輸出	"	75 ▲ 8	▼ -
	在庫	8/17	1,456 ▲ 170	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/13 ~ 8/19	81.4 ▲ 1.0	▼ -11.2
		(TOCOM/中部) 8/19	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 8/19	154.2 ▼ -0.1	▼ -8.9

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/11 ~ 8/17	74 ▼ -33	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	36 ▼ -26	▼ -
	輸出	"	24 ▲ 1	▼ -
	在庫	8/17	1,806 ▲ 14	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/13 ~ 8/19	80.0 ➡ 0.0	▼ -4.0
		(TOCOM/中部) 8/19	80.0 ▲ 1.0	▼ -13.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 8/19	117.2 ➡ 0.0	▼ -5.0



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(8/1~8/7)のNYMEX・WTI先物市場は72.94~76.31ドルの範囲で推移した。
 当週、8月8日は、米雇用統計が改善、イスラム諸国会議外相会議でイランがイスラエルへの報復を宣言し、3日続伸した。9月物終値は前日比0.96ドル高の76.19ドル。週末9日は、米国株式市場も回復、他方、イランのイスラエル攻撃懸念が拡大し、4日続伸した。9月物終値は同0.65ドル高の76.84ドル。週明け12日は、ハマス・イランとイスラエルの対立激化、米国景気のソフトランディング観測から、5営業日続伸、80ドル台を回復した。9月物終値は同3.22ドル高の80.06ドル。13日は、中東情勢の緊張が高まる中、直近の続伸で利益確定売りが多く、OPEC月報では中国の需要鈍化を理由に2024年の世界需要予想を約20万BD下方修正、IEA月報も同様に24年需要は据え置いたものの25年見通しを下方修正し、6営業日ぶりに反落した。9月物終値は、同1.71ドル安の78.35ドル。14日は、米国国内原油在庫が予想に反し7週ぶりに積み増しに転じ、需給緩和感が発生、また、最近の各種需要見通しが弱含みが続いたことから続落した。なお、イラン高官は、報復攻撃は停戦交渉次第と発言

した。9月物終値は、同1.37ドル安の76.98ドル。15日は、7月の米国小売売上高が市場予想を上回り、最新週の失業保険申請数も減少、米国景気の底堅さを示し、また、この日始まったパレスチナ停戦交渉の不透明さもあって、3日ぶりに反発した。9月物終値は、同1.18ドル高の78.16ドル。週末16日は、中国の7月新築住宅価格が下落、景気後退懸念が拡大するとともに、停戦交渉進展報道で緊張緩和が進み、反落した。9月物終値は、同1.51ドル安の76.65ドル。週明け19日は、引き続き、米中両国の景気鈍化懸念が広がる中、停戦交渉進展観測から、続落し75ドルを割り込んだ。9月物終値は、同2.28ドル安の74.37ドル。20日は、パレスチナ停戦期待はさらに拡大、中国人民銀行が追加の経済刺激策を見送ったこともあり、続落した。9月物終値は、同0.33ドル安の74.04ドル。21日は、米労働省の雇用統計改定値が軟化したことから、景気後退懸念が再燃、4営業日続落し、7か月ぶりの安値を記録した。ただ、米国石油在庫統計は予想を上回る取り崩しだった。この日から直近限月の10月物終値は、同1.24ドル安の71.93ドル。

2 海外/米国石油市場

8月14日発表の9日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油は前週比140万バレル増と市場予想(同220万バレル減)に反する7週ぶりの積み増し、ガソリン在庫は同290万バレル減、中間留分は同170万バレル減とともに市場予想を上回る取り崩しであったものの、全体として6週連続の取り崩し後の積み増しで需給緩和感が高まり、値下がり要因となった。また、8月21日発表の16日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油は前週比460万バレル減と市場予想(同270万バレル減)を上回る2週ぶりの取り崩し、ガソリン在庫は同160万バレル減、中間留分は同330万バレル減とともに市場予想を上回る取り崩しであった。

EIAによると8月12日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.4セント安の1ガロン3.414ドル(132.9円/ℓ)と2週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比5.1セント安の1ガロン3.704ドル(144.9円/ℓ)と5週連続の値下がり。また、8月19日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.2セント安の1ガロン3.382ドル(133.9円/ℓ)と3週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比1.6セント安の1ガロン3.688ドル(145.3円/ℓ)と6週連続の値下がり。

ペカーヒューズ社によると、8月9日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比3基増の485基となった。また、8月16日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基減の483基となった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年8月11日~8月17日に休止したトッパー能力は61.1万バレル/日で、前週に対して3.9万バレル/日増加した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は246.1万klと、前週に比べ1.8万kl増加。前年に対しては56.7万klの減少。トッパー稼働率は71.1%と前週に対して0.5ポイントの増加、前年に対しては10.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/9.4%増、ジェット/100.9%増、灯油/30.5%減、軽油/32.4%減、A重油/21.6%減、C重油/6.8%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比8.4万kl減)。軽油の輸出は7.5万kl(前週比0.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、ジェットが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリンが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は96.7

万kl(対前週13.1%増)と5週連続で増加した。ジェット8.6万kl(対前週38.0%増)、灯油3.6万kl(対前週41.7%減)、軽油21.9万kl(対前週62.6%減)、A重油5.9万kl(対前週70.8%減)、C重油10.2万kl(対前週31.3%減)。

(単位: 千kl)

	今週 (8/11 ~ 8/17)	前週 (8/4 ~ 8/10)	前週比
ガソリン	967	855	▲ 112 (13%)
ジェット燃料	86	62	▲ 24 (39%)
灯油	36	62	▼ -26 (-42%)
軽油	219	585	▼ -366 (-63%)
A重油	59	203	▼ -144 (-71%)
C重油	102	149	▼ -47 (-32%)
合計	1,469	1,916	▼ -447 (-23%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

8月17日時点の在庫は、ガソリンが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては全ての油種で減少した。

ガソリンは134.6万kl、前週差8.6万kl減。前年に対しては6.3万kl少ない。

灯油は180.6万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては31.7万kl少ない。

軽油は145.6万kl、前週差17.0万kl増。前年に対しては8.8万kl少ない。

A重油は71.8万kl、前週差7.3万kl増。前年に対しては1.3万kl少ない。

C重油は178.1万kl、前週差7.0万kl増。前年に対しては22.5万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (8/17)	前週 (8/10)	前週比
ガソリン	1,346	1,432	▼ -86 (-6%)
ジェット燃料	827	695	▲ 132 (19%)
灯油	1,806	1,792	▲ 14 (1%)
軽油	1,456	1,286	▲ 170 (13%)
A重油	718	645	▲ 73 (11%)
C重油	1,781	1,711	▲ 70 (4%)
合計	7,934	7,561	▲ 373 (4.9%)

5 国内/元売会社製品卸価格

8月6日～12日のドル建て中東原油価格は値下がり、為替レートも円高で、円建て輸入原油価格は値下がりし、元売会社の卸価格建値は値下げしたものと見られる。しかし、補助金の削減幅がこれを小幅に上回ったことから、8/15～8/21の実質卸価格は小幅な値上がりとなる模様。

8月13日～19日のドル建て中東原油価格は値上がり、為替レートも円安で、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸価格建値は値上げしたものと見られる。しかし、補助金の増額幅がこれをわずかに下回ったことから、8/22～8/27の実質卸価格はわずかな値上がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

8月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの174.6円、軽油も同横ばいの154.3円、灯油は18%ベースで同1円高の2,109円(1%ベースでも同0.1円高の117.2円)。ガソリンは5週ぶりに値下がり止まり、軽油も5週ぶりに値下がり止まり、灯油は5週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが15道県、横ばいは6府県、値下がりは26都県だった。全国最安値は愛知県の167.5円、その次は岩手県の167.7円であった。他方、最高値は長野県の182.4円。最も値上がりしたのは佐賀県(同2.3円高)、最も値下がりしたのは徳島県(同1.7円安)だった。

また、8月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の174.5円、軽油も同0.1円安の154.2円、灯油は18%ベースで同横ばいの2,109円(1%ベースでも同横ばいの117.2円)。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も2週ぶりの値下がり、灯油は2週ぶりに値下がり止まった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが17府県、横ばいは4府県、値下がりは26都道県だった。全国最安値は岩手県の168.0円、その次は宮城県168.4円であった。他方、最高値は長野県の182.3円。最も値上がりしたのは愛知県(同1.6円高)、最も値下がりしたのは佐賀県(同2.3円安)だった。

次回調査時(8/26)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がり予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (8/19)	前週 (8/13)	前週比	直近高値
レギュラー	174.5	174.6	▼ -0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.2	117.2	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.2	154.3	▼ -0.1	08/8/4 167.4

小売価格

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第20号) の公表は、8/30 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。